

●新会員代表者紹介
ひろせ りょうこう
廣瀬 良弘



駒澤大学学長

石井清純前学長の任期満了に伴い、四月一日付で廣瀬良弘文学部教授が新学長に就任した。

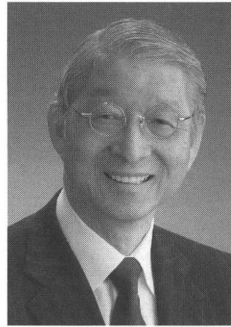
廣瀬良弘新学長は一九四七年埼玉県杉戸町の生まれ。一九六六年埼玉県立春日部高等学校卒。一九七〇年駒澤大学文学部歴史学科卒、一九七五年駒澤大学大学院人文科学研究科日本史専攻博士課程満期退学。一九八七年駒澤大学文学部専任講師に就任、助教授を

経て一九九五年教授。一九九九年文学部歴史学科主任。二〇〇二年から二〇〇六年まで教務部長。また、二〇一三年三月まで七年間、陸上競技部部長を務める。この間に一九八五年、駒澤大学から学位(文学博士)を取得している。専門分野は日本中・近世史、日本禅宗史。特に禅宗の地域的展開の研究を専門とし、禅僧や禅寺が戦国期から近世初期にかけて大展開を遂げたことについて考究している。

また、史料保存・保全にも関心を示し、地方史研究協議会の常任委員を務め、現在は全国八十七の歴史学会を束ねる日本歴史学協会の会長としても活躍している。

駒澤大学は北日ヶ窪(現・六本木ヒルズ)に開校して、昨年百三十周年。今年はそのから駒沢に移転して百年。廣瀬新学長はこの伝統を踏まえ、建学の理念「行学一如」のもと、必修である「仏教と人間」に加えて、初年次教育の充実、新カリキュラムの導入により、主体性を身につけ、グローバル社会に適應するとともに、会社や地域社会の核となつて働けるグローバルな人材の育成をも視野に入れている。

●新学長紹介
のじま まさや
野島 正也



文教大学学長

大橋ゆか子前学長の任期満了に伴い、四月一日付で野島正也人間科学部教授が学長に就任した。

野島正也新学長は、一九四七年新潟生まれ。新潟大学教育学部を卒業後、同大学専攻科を修了、東京教育大学大学院教育学研究科博士課程を一九七七年退学、文教大学人間科学部専任講師として赴任。助教授、教授を経て、二〇〇六年より人間科学研究科長と生涯学習センター長を兼任、二〇〇九年より

人間科学部長と副学長を兼任。専門は生涯学習論・ライフプランニング論。内閣府統計委員会専門委員、国立教育政策研究所客員研究員、埼玉県生涯学習審議会会長などを歴任した。現在、文部科学省生涯学習局統計分析アドバイザー。

文教大学は二つのキャンパスからなる。埼玉県越谷市に教育学部、人間科学部、文学部の三学部、神奈川県茅ヶ崎市に情報学部、国際学部、健康栄養学部の三学部(二〇一四年度に経営学部が加わる予定)がある。

設置母体である文教大学学園の建学の精神である「人間愛」に基づき、「いいねいにくましく育てる」教育を実践中である。就任早々に学長をモデルにした「のじのじくん」携帯ストラップが製作されるなど、親しみやすいキャラクターが大学の内外に発信されている。

新学長は、「教育の文教」「授業の文教」を掲げて大学の教育力アップを推進する一方、学生にキャンパスに行くのが楽しいと思ってもらえるような「対話重視」の環境づくりにも意欲を燃やしている。

私立大学 フォーラム

私立大学は教育立国の
再構築に挑戦します。

平成25年度 グランドテーマ 教育立国の再構築を目指した 私立大学の挑戦

申込方法

インターネットでお申し込みください▶<http://www.shidairen.or.jp/>

参加無料・事前予約

私立大学フォーラムお問い合わせ事務局 TEL: 0120-134-572
受付時間: 10:00~17:00 [月~金曜日(祝日除)]

東京

9月21日(土)
13時
丸ビルホール

「テーマ」グローバル化と教育改革

—ビジネスの現場からのヒント—

- ・平野正雄氏(早稲田大学ビジネススクール教授、元マッキンゼー・アンド・カンパニー日本社長、元カーライル日本共同代表)
- ・八木洋介氏(株式会社グループ執行役副社長)

【開催趣旨】急速に進む社会や産業界のグローバル化。その国際競争力の源は、技術力・ブランド力・組織力であり、それに加えビジネスモデルを市場の変化に応じて修正していく環境適応力が必要不可欠です。これらの力を支えるのは人であり、これからの日本社会を支えるたくましい人材を育てることが教育の役割です。創造性やリーダーシップを発揮できる人材の育成・活用は、緊急を要する課題となっています。ビジネスの現場から見たグローバル化の実態に加えて課題解決に向けた企業の工夫を紹介し、大学の教育改革のヒントとします。

仙台

10月12日(土)
13時
東北学院大学
「押川記念ホール」

「テーマ」被災地復興と大学・学生の役割

- ・大東和美氏(公益社団法人日本プロサッカーリーグチエアマン)
- ・戸羽 太氏(陸前高田市長)
- ・原田勝広氏(明治学院大学ボランティアセンター長)
- ・山本啓子氏(NPO法人JEN理事・事務局長)

【開催趣旨】二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災による地震と津波、そして原発事故は深刻な被害を東北地域にもたらしました。震災発生以降、多くの大学は、災害ボランティアなど被災地復興へのさまざまな取り組みを行っています。支援活動の中で生じた課題に取り組むことも、教育・研究機関としての大学に課せられた使命です。本当に必要な支援とは何かを大学目線だけではなく市民の方々と共に考え、大学が地域社会とともに復興に取り組み方法や、防災や減災に向けた体制づくりについて考えます。

京都

11月16日(土)
13時
京都産業大学
「むすびわざ館」

「テーマ」多様化する時代を乗り切るための私立大学からの提案

- ・本間政雄氏(大学マネジメント研究会会長、関東学院常務理事(企画・国際・社会連携担当))
- ・田中愛治氏(早稲田大学理事(教務部門総括))
- ・日比谷潤子氏(国際基督教大学学長)
- ・石川憲一氏(金沢工業大学学長)

【開催趣旨】大正七年の大学令公布により大学へと昇格した私立大学は、社会の要請に応える組織として多様な人材の育成に努めてきました。その試みは、国立大学の填補を目的とした活動ではなく、各大学が掲げる自主闊達な教育理念の実現を目指すものです。一方で昨今、大学と社会の実情との乖離が指摘されています。私立大学には新たな提案の社会への提示、日本の高等教育の変革を担うことが求められています。先駆的な教育課程の事例を通じて柔軟な発想と自主性に富む私立大学主導の高等教育の将来像を展望します。

連盟二ニュース

●私大連盟「第一回学長会議」開催

平成25年6月15日、16日の二日間にわたり、ランドプリンスホテル京都にて「平成25年度第一回学長会議」を開催。「大学教育の質的転換」をどう進めるか」をテーマに掲げ、四つの教育プログラム（学生の主体的な学習、グローバル人材、中等教育との接続、地域社会における問題解決）を討議の柱に据え、各大学の様々な取り組みの仕掛けや仕組みの共有を通じて、個々の大学における主体的かつ自律的な質的転換方策について考える機会の一助とすべく開催し、六十五法人六十九名が参加した。

●企画案・ご意見ご感想の募集

広報・情報部門会議（大学時報）では、購読者のニーズにより合致した情報を提供するため、企画案・ご意見ご感想を随時募集しております。

①募集内容・企画案（テーマと趣旨、ご意見ご感想、②書式…自由（A4一枚程度）、③提出先…daigakujiho@shidaren.or.jp）④その他…連絡先（お名前、大学名等）を明記ください。

編集後記

□本年四月より、『大学時報』発行の一翼を担う広報・情報部門会議（大学時報委員という大役を仰せつかった。業務経験も浅く力不足ではあるが、精一杯努力する所存である。最初の仕事は、本号の特集「学生に海外体験を——留学のススメ」の編集責任者である。といつても、六人の先生方からご寄稿いただいた各原稿を拝読し、掲載順を考えることが主な仕事だった。それぞれ、日本のみならず海外で活躍できうる人材の育成について、各校の先進的な取り組みや、筆者のお考えが紹介され、非常に示唆に富むものであった。多くの読者をお持ちであろう課題を、解決するヒントがちりばめられていると感じた私は、六本すべてをお読みいただき、多くの大学から、グローバル人材が輩出されることを願ひ掲載順を考えた。初仕事の責任は重大である……（広報・情報部門会議（大学時報）委員・関西大学広報室広報課 中川 雄弘）

□大学評価やそれに伴うランキングは、ともすれば一部ジャーナリズム

の限られた問題関心から興味本位に取り上げられることも多く、そうした評価が様々な問題点を抱えていることは改めて指摘するまでもない。

他方、日本の全学部の生は、大学の教育している私立大学は、大学の個性を充実させつつ、将来の日本を担う人材の育成という責務を担っている。そのため大学の改革は切迫した課題であるが、改革の出発点、あるいは改革プロセスの参照点となる、より公正で客観的な評価のための指標が、自他ともに必要とされていることも、また否定できない趨勢であろう。加えて現在進行しつつある「大学ポートレート」構築との連関も重要な論点である。

今回の小特集が、大学評価の発展の経緯や、評価項目の変遷、様々な形のランキングの意味について、理解の一助となることを願っている。

（広報・情報部門会議（大学時報）委員・慶應義塾大学法学部教授 赤木 完爾）

□プロックリは国内産か海外産か。野菜を買う何気ない行動にも「グローバル化」は見え隠れすることにふと気がついた。「グローバル化」と「国際化」と聞くと、特定の地域や職種に限った話のように考えられがちだが、実は私たちの日常生活に密接

に関わり、好むと好まざるにかかわらず、グローバル化はやってくる。本号の座談会では、いま学生に求められている外国語教育について、特集では、留学体験を通じたグローバル人材養成の取り組みを紹介し、座談会・特集を通して、大学教育におけるグローバル化を考えたい。

また、グローバル化に劣らず、話題のツイッターやフェイスブックなどのSNS。新たなコミュニケーションツールとして若者に支持されている。しかし、SNSにおけるモラルや危険性についての十分な認識をもたずに利用している学生は少なくなく、トラブルになるケースもある。こうした中、SNS教育の重要性が注目されており、本誌「SNSと共存する社会へ」が、読者の十分な認識を得る一助となれば幸いである。

（日本私立大学連盟事務局 春名 貴明）

●お詫びと訂正

「大学時報」平成25年5月号）連盟二ニュース「平成25年春の叙勲（連盟関係者）」（前号12頁上段5行目）において、丸茂 新氏の役職を「関西学院大学名誉教授」と掲載すべきところ誤って「関西大学名誉教授」と掲載いたしました。お詫びして訂正いたします。

4 | は同一学校法人

(124大学 平成25年7月20日現在)

[illegible]

大學時報 7月号

第62卷351号（通巻365号）
平成25年7月20日発行

編 集 人 音 好 宏 (上智大学文学部教授)

發行人 仙波 憲一 (青山学院大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363

<http://www.shidaiaren.or.jp>

印刷所 凸版印刷株式会社

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

小林直毅	(法政大学社会学部教授)
大井川信	(上智大学学術情報局長)
日方聖雄	(関西大学広報課長)
筒井弘幸	(関西学院大学入試部課長補佐)
高井完爾	(慶應義塾大学法学部教授)
赤見勉	(南山大学情報理工学部教授)
兼高聖雄	(日本大学芸術学部教授)
大村健太	(立教大学学生社会学部学生課)
大場茂生	(立命館大学総合企画部広報課長)
田名陽子	(早稲田大学広報室課長主任)
春貴	(日本私立大学連盟事務局)

